

潰瘍性病変（男性）———症状とその鑑別診断 [4]・1

男性の性器に潰瘍性病変またはびらんを呈する疾患には、以下のものがある。

鑑別を要する疾患

- A. 性器ヘルペス
- B. 梅毒 硬性下疳
- C. 軟性下疳
- D. 性病性リンパ肉芽腫症
- E. 鼠径肉芽腫
- F. 外陰皮膚粘膜カンジダ症
- G. 帯状疱疹
- H. ベーチェット（Behçet）病
- I. 固定薬疹
- J. 接触性皮膚炎
- K. 外傷
- L. 乳房外パジェット（Paget）病
- M. 開口部プラスマ細胞症

疾患の解説

A. 性器ヘルペス

初感染：感染 2～10 日後に、亀頭部や陰茎体部などの外性器に水疱性病変が多発し、後に破れて浅い潰瘍になる。発熱を伴い、鼠径リンパ節の腫脹と圧痛がみられ、

尿道分泌物もみられる。ホモセクシャルの肛門性交では、肛門周囲や直腸粘膜にも病変が現れる。治療を行わない場合でも 2～3 週で自然治癒する。

再発：小さい潰瘍性または水疱性病変が単発するかまたは複数個限局してみられ、疼痛などの症状は初感染に比べて軽い。治療を行わない場合でも 1～2 週間で治癒する。再発の頻度は様々であり、頻回に再発を繰り返す場合もある。再発の前兆として、外陰部の違和感や大腿から下肢にかけて神経痛様疼痛などを伴うことがある。肛門や臀部にも再発することがある。

B. 梅毒 硬性下疳

感染後 10～30 日で感染部位に生じた硬い丘疹が潰瘍化し、後に両側鼠径部のリンパ節が硬く腫脹する。いずれも疼痛などの自覚症状はない。

C. 軟性下疳

感染後 2～7 日で、亀頭、冠状溝の周辺に小豆大までの紅色小丘疹が出現し、中央が膿疱化し、次いで浅い潰瘍になる。次第に潰瘍は、深くなり、辺縁は鋸歯状で紅暈を伴うが、浸潤は著明でない。灰黄色の被苔をはがすと出血しやすく激痛を伴い、自家接種により数を増し多発してくる。2～3 週間後に約 50%の症例で鼠径リンパ節が多くは片側性に腫脹する。リンパ節は、多数柔らかく発赤腫脹し、疼痛は著しく、やがて自潰排膿してくる。

D. 性病性リンパ肉芽腫症

感染後 3～12 日で、感染部位の会陰部や直腸に 5～8mm 大のびらんや丘疹が生じ、後に潰瘍となり、数日で治癒する。疼痛などの自覚症状がなく、気づかないことが多い。その後 1～2 週間以内に鼠径部あるいは大腿部リンパ節が、初め硬く腫脹するが、後に軟化後自壊し、ろう孔を形成する。一般に 2～3 か月で治癒するが、稀に陰茎や陰囊の象皮病へ移行することがある。慢性病変として、潰瘍を陰茎に形成する場合もある。

E. 鼠径肉芽腫

感染後 1 週～3 か月で、陰茎、陰囊、鼠径部、大腿部

に自覚症状のない肉様の易出血性の結節が生じる。潰瘍化し、潰瘍辺縁は堤防状に隆起し、周囲に拡大する。

F. 外陰皮膚粘膜カンジダ症

感染後、数日で亀頭部、冠状溝周辺に発赤、紅色丘疹、水泡、膿疱、びらんなどが生じ、浸軟する。

G. 帯状疱疹

外陰部の皮膚や粘膜に、片側性の浮腫性紅斑、次いで小水泡、潰瘍、痂皮を形成する。神経痛様疼痛が先行または皮膚粘膜病変とほぼ同時に出現することが多い。治療を行わない場合でも2～3週で治癒する。

H. ベーチェット病

陰嚢に好発。陰茎にも出現する。深く鋭い辺縁を持つやや大型の潰瘍。再発性口腔内アフタ性潰瘍、皮膚症状（結節性紅斑様発疹、毛嚢炎様皮疹、皮下の血栓性静脈炎）、外陰部潰瘍、眼症状（虹彩毛様体炎、網膜ぶどう膜炎）を主徴とする疾患。

I. 固定薬疹

亀頭部、包皮にかけて通常は単発、時に複数の大小不同の類円形の紅斑が出現し、しだいに中央部が暗赤色の局面となる。次いで、びらんや浅い潰瘍を形成する。治癒後、色素沈着を残す。

J. 接触性皮膚炎

一次刺激性のものと、アレルギー性機序によるものがある。腔分泌物、抗真菌薬などの医薬品、避妊用具、尿尿、手指を介して接触する物質などで生じ、多くは境界明瞭な紅斑で痒みを伴う。炎症が激しい場合はびらんを生じることがある。

K. 外傷（器物など）

性交後に生じる裂傷、びらん。咬傷が多い。

L. 乳房外バジレット病

陰茎、陰嚢、恥丘、肛門、会陰に、境界明瞭な湿潤傾向のある紅斑、脱色素斑、色素沈着、痂皮を伴う局面としてみられる。

M. 開口部プラズマ細胞症

亀頭、陰茎に慢性に経過する境界明瞭な光沢のある赤褐色斑またはびらん。その中に微細な赤色点があることが特徴。中高年に多い。

診断の流れ

A. 性器ヘルペス

- ・抗原検査：水泡蓋、水泡底部の細胞を採取し、スライドガラスに載せ、蛍光抗体法にて検出する。
- ・核酸検出法（PCR法）
- ・培養
- ・血清反応（型特異的抗gG抗体の検出）

B. 梅毒 硬性下疳

- ・墨汁法あるいはパーカーインクで染色。
- ・発疹の表面をメスで擦って、病原菌を染色して調べる。
- ・生検し、組織像と病原体を検出する。
- ・感染後4週間以降のものは梅毒血清反応を行う。

C. 軟性下疳

- ・潰瘍面の分泌物の検鏡（グラム染色やウンナー・パッペンハイム染色）
- ・培養
- ・生検

D. 性病性リンパ肉芽腫症

- ・抗体価（補体結合反応）
- ・膿からの菌の証明
- ・生検

E. 鼠径肉芽腫

- ・生検

F. 外陰カンジダ症

- ・水酸化カリウム（KOH）法による顕微鏡検査

G. 帯状疱疹

- ・抗原検査：水疱蓋、水疱底部の細胞を採取し、スライドガラスに載せ、蛍光抗体法にて検出する。
- ・核酸検出法
- ・培養
- ・血清反応（ペア血清による抗体価の有意の変動）

H. ベーチェット病

- ・生検
- ・皮膚の針反応
- ・HLA 検査（HLA-B51 の検出）

I. 固定薬疹

- ・薬歴調査

- ・DLST
- ・内服試験

J. 接触性皮膚炎

- ・貼布テスト

K. 外 傷

L. 乳房外バジエット病

- ・生検

M. 開口部プラズマ細胞症

- ・生検